

# 図書だより



田原本町立北中学校  
令和5年6月  
第3号

## ブックトークを行いました！

今年度もこの時期がやってきました！ 毎年恒例の「ブックトーク」！ 町立図書館の司書さんに来ていただき、おすすめの本を10冊程度紹介していただくという取り組みです。「ブックトーク」を実施した後は、毎年多くの方が本を借りていってくれます。それだけ、司書さんのプレゼンテーションが魅力的と言うことなのでしょう。感想にも、「司書さんの紹介のしかたがすごく上手かった。」「自分もあんなふうに自分の好きな本を紹介できるようになりたい。」という感想が多々ありました。今年度もブックトークを聞いて、多くの方が多くの本を手にとってくれることを願っています。



## 2年生で紹介された本



「ルックバック」藤本タツキ (集英社)

自分の才能に絶対の自信を持つ藤野と、引きこもりの京本。田舎町に住む2人の少女を引き合わせ、結びつけたのは漫画を描くことへのひたむきな思いだった。月日は流れても、背中を支えてくれたのはいつだって——。唯一無二の筆致で放つ青春長編読切。



「エヴリデイ」デイヴィッド・レヴィサン (小峰書店)

目覚めたら、すぐに「自分がだれか」を把握しなければならない。なぜなら、Aは毎朝、違う人物のからだの中で目覚めるから。共通点は、からだを借りる相手はかならず16才だということ。16才なら、男でも女でもあり得る。住んでいる場所がメリーランド州の一定範囲内であること。からだを借りるのは、一日だけであること。そして、二度と同じ人物にはならないこと。肉体も名前も持たない彼/彼女は、自分のことを「A」とだけ、呼んでいる。



「ちいさな飼育員 淡路島 ニホンザルのおはなし」延原早紀 (講談社)

小4の少女と野生ザルとのノンフィクション15年間、ボスザルとして群れを平和にまとめたマッキー。

小4の早紀ちゃんは、2歳のころからえさをあげ、ふんをそうじし、サルたちを身近で観察するうち、200頭いるサルたちの顔と名前が一致するほどになった。サルたちの世話をしながら知ったサル社会のすばらしさをユーモアたっぷりの語りと写真で紹介するノンフィクション。



「宇宙のみなしご」森絵都書店)

中学2年生の陽子と1つ歳下の弟リン。両親が仕事で忙しく、いつも2人で自己流の遊びを生み出してきた。新しく見つけたとっておきの遊びは、真夜中に近所の家に忍び込んで屋根にのぼること。リンと同じ陸上部の七瀬さんも加わり、ある夜3人で屋根にいたところ、クラスのいじめられっ子、キオスクにその様子を見られてしまう…。第33回野間児童文芸新人賞、第42回産経児童出版文化賞ニッポン放送賞受賞の青春物語。



1年生は、当初予定していた6月2日が警報発令により臨時休校となったために、ブックトークも延期になっていました。楽しみにしてくれていた人が多かったようで、「楽しみにしていたのに。」とか、「もうないんですか？」などと聞いてくれる人もたくさんいました。仕切り直して6月22日にブックトークを実施したところ、「楽しかった!」「紹介してもらった本をすべて読みたい!」「1年生の間にもう一度してほしい!」など、高評価でした。

紹介してもらった本をたくさん読んで、今度はみなさんが「この本面白かったよ!」と紹介できるようになってください。

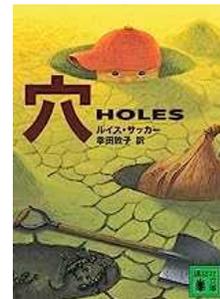


## 1年生で紹介された本



### 「かがみの孤城」辻村深月 (ポプラ社)

学校での居場所をなくし、閉じこもっていたところの目の前で、ある日突然部屋の鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先にあったのは、城のような不思議な建物。そこにはちょうどころと似た境遇の7人が集められていた——。なぜこの7人が、なぜこの場所に。すべてが明らかになるとき、驚きとともに大きな感動に包まれる。生きづらさを感じているすべての人に贈る物語。一気読み必至の著者最高傑作。



### 「穴HOLES」ルイス・サッカー (講談社)

無実の罪で少年たちの矯正キャンプに放りこまれたスタンリー。かちんこちんの焼ける大地に一日一つ、てっかい穴を掘らされる。人格形成のためとはいうが、本当はそうではないらしい。ある日とうとう決死の脱出。友情とプライドをかけ、どことも知らない「約束の地」をめざして、穴の向こうへ踏み出した。



### 「54字の物語Q」氏田雄介 (PHP研究所)

- ◆長い間人々を脅かしている地縛霊。僧侶が何度念仏を唱えても。全く成仏する気配がない。「あ、こいつ、【?】の霊だ!」(→答えは漢字1文字)
  - ◆電子機器に疎い祖父が電子書籍リーダーを買った。読みたい本はたくさんあるらしいが、真っ先に【???】を読み始めた。(→答えは漢字3文字)
  - ◆「鶏が先か?卵が先か?」明確な答えはいかなる本にも書かれていない。しかし、【??】においては間違いなく卵が先だ。(→答えは漢字2文字)
- ……など、答えがわかるとスッキリする超短編クイズを収録。クイズの答え&物語の解説は、ぜひ本書でお楽しみください!



### 「おとなになるのび太たちへ: 人生を変える『ドラえもん』セレクション」藤子・F・不二雄 (小学館)

誕生から50年がすぎた現在でも、読み継がれているドラえもんのコミックス。本書は、思春期の子どもたちにおけて、人生の指針となる10話を、それぞれの職業で日本を代表する10名に選んでいただきました。自分はなにになりたいのか、どう生きたいのか、迷っている子どもたち(もちろんおとなたちにも)の道標となる1冊です。



～ちょっと嬉しかった話～

私事で大変恐縮ですが、先日6月8日は私の誕生日でした。そのことを知った生徒たちが次々と図書室を訪れ、「先生、お誕生日おめでとうございます。」とお祝いの言葉をかけてくれました。それが一人や二人ではなく、何十人も! この年になると誕生日があまり嬉しくなくなってくるのですが、今年の誕生日はとても心が温まり、幸せを感じる一日となりました。

先生の誕生日を素直に祝福し、優しい言葉をかけられる北中学校の生徒たちはすばらしいと思いました。これからも人を温かい気持ちにさせられる人であってください。